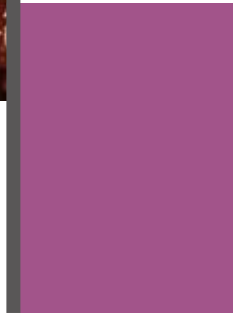
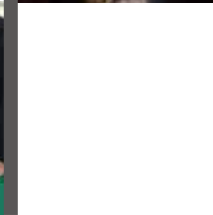
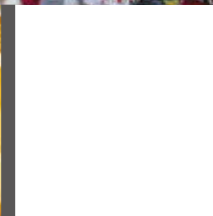
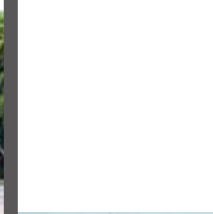
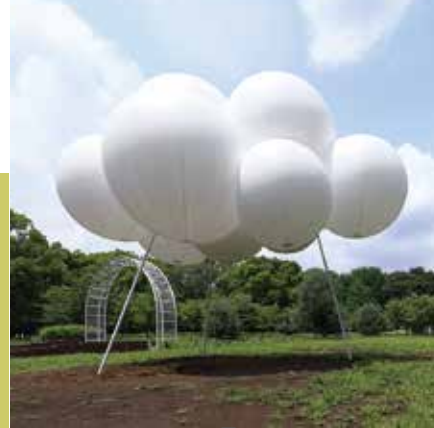


TOKYO CULTURE

TOKYO CULTURE



# 文化プログラムパンフレット in 東京

写真左上から右下：Cloud pavilion(雲のパビリオン) 設計：藤本壮介 撮影：木與恵三/光の速さ -The Speed of Light- ©松本和幸/《まさゆめ》目 [mé], 2019-21 撮影：金田幸三/漫画「もしも東京」展/水明 設計：妹島和世 撮影：妹島和世建築設計事務所/ONE -Our New Episode- Presented by Japan Airlines-MAZEKOZEアイランドツアー/インクルーシブNIPPON shinagawa発2020能・狂言特別公演/歌舞伎『石橋』尾上菊之助 提供：日本芸術文化振興会/しあわせはこぶ旅 モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ Presented by ENEOS/作品制作風景(井茂圭洞)





# 東京2020大会 4つの文化FESTIVAL

オリンピック・パラリンピックは、スポーツの祭典であるとともに、文化の祭典でもあります。2016年のリオデジャネイロ大会以降、東京2020大会に向けて、東京都、組織委員会及び国は、様々な文化プログラムを展開してきました。新型コロナウイルスの影響により、多くの事業が当初の想定どおりに実施できなかったものの、感染症対策を徹底し、工夫を凝らしながら魅力を損なうことなく多彩なプログラムを実施し、多くの方々にご参加いただくことができました。

## 東京都

### Tokyo Tokyo FESTIVAL



東京都は、芸術文化都市東京の魅力を伝えるため、オリンピック・パラリンピック開催都市として多彩な文化プログラムをTokyo Tokyo FESTIVALと銘打って展開しました。伝統と現代、そして世界中の文化が交差する東京で多様なジャンルのプログラムをオンラインも交えて実施し、東京の芸術文化の魅力を感じていただく機会となりました。

## 東京2020 組織委員会

### 東京2020 NIPPONフェスティバル



オリンピック・パラリンピックは、競技のみに終わらない、地球最大規模の「平和の祭典」です。文化プログラムは、「平和な社会の推進」「人類の連帯の象徴」として、オリンピック・パラリンピックに必要な不可欠なものであり、相互理解を進めグローバルな連帯や協力を促していく力があります。NIPPON フェスティバルは、日本各地の熱気と多様性が融合し、様々な人と文化が交流する場となりました。

## 逆境の中でも成功を収めた東京2020大会

東京2020大会は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受け、2020年夏の開催日程から1年の延期を余儀なくされました。また、東京都などに緊急事態宣言が発令される中で開催され、42会場のうち(宮城、茨城、静岡3県を除く)37会場が無観客となる中、徹底した感染防止対策の下、約1か月にわたり熱戦が繰り広げられ、世界中に勇気と感動を届け、成功を収めました。



## 文化庁 日本博



「日本博」は、オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、総合テーマ「日本人と自然」及び「縄文から現代」というコンセプトの下、「日本の美」を体現する美術展、舞台公演、文化芸術祭等のプログラムを、日本全国で四季折々、年間を通じ体系的に展開し、国内外へ発信するプロジェクトです。開催時期は、オリンピック・パラリンピック本番年を中心としつつ、その前後の期間も含めて幅広く展開します。

## 内閣官房・文化庁

### beyond2020プログラム



日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムを認証する取組です。伝統的な芸術から、クールジャパンとして世界中が注目するコンテンツ、食文化、祭りや伝統的工芸品等、様々な分野のプログラムが、幅広い団体により全国各地で展開されました。各認証事業では、様々な工夫により、バリアフリー対応や多言語化が図られました。



現代美術家、東京藝術大学 美術学部長 日比野 克彦氏

## 変わり続ける時代にとって、TURNは大きな力になっていく

### PROFILE

ひびの かつひこ。岐阜県出身。日本財団アル・ブリュット美術館合同企画展2014-2015「TURN / 陸から海へ(ひとははじめからもっている力)」を監修。2015年度より、東京2020大会の文化プログラムを先導する東京都のリーディングプロジェクト「TURN」の監修を務める。

TURNの概要やコンセプトについてお聞かせください。

TURNというアートプロジェクトは、芸術が社会的なさまざまな課題解決の糸口になるべく、主に福祉施設関係、マイノリティのコミュニティ等の方々との交流を軸として活動しています。アーティストが彼らと接点をもつことによって生まれた成果物などを発信し、その現状や課題を社会に伝え、より一層の理解を得ることを目指しています。

アーティストにとってのTURN活動の意味をお聞かせください。

TURNに参加しているアーティストにとって、新しい人や経験、自分と違う感覚等と接することのできる環境は非常に魅力的で、その差異が刺激となり新たな表現へとつながります。この活動を続けていると今まで常識だと思っていたものが覆されるような出会いが多くあり、強いて言うならば、自分と違う価値観に出会える文化施設のような、まさに価値観がTURNできる場所でもあります。

コロナ禍での開催となりましたが、その意義についてお聞かせください。

現在の状況は、見えない敵との闘いであり、国

も人種も障害の有無も関係なく、戦争のように憎しみがあるわけでもない。世界中に同じように降りかかってきた大きな課題です。この課題を受けて人間が学ぶべきことはたくさんあったと思います。出来ないこと、失ったものを悔やむのではなく、今だからこそ出来ることをする。芸術も同様です。これを自分たちの時代の特徴であると捉えて、そこから得るものを前向きに発信していければいいと思います。



TURNフェスでの作品展示

TURNの今後についてお聞かせください。

オリンピック・パラリンピックが終わってプログラムはひと区切りつきましたが、お互いの絆はしっかり築けましたので、個々のアーティストと施設との関係性は今後も続いていきます。その関係性は一方的なものではなく、アーティストも施設の彼らから素晴らしいものを得ようとする対等なものです。また、芸術作品は美術館の中だけで鑑賞するものではないというふうに、芸術の捉え方も年々変化しています。このように変化のある時代だからこそ、TURNのさまざまな活動が今後大きな力になってくると考えています。



画家 横尾 美美氏

## 2年越しの大壁画、見上げた人の心が開かれていけばと願う

### PROFILE

よこお みみ。東京都出身。1994年「Tadanori & Mimi YOKOO」展で展覧会デビュー。1995年から、東京を中心に全国各地で個展を開催。最近ではme ISSEY MIYAKE "MIMI YOKOO"の第一弾(2017年)から第三弾(2020年)まで三宅一生とコラボレーションを展開している。

「大壁画」の話を打診されたときのお気持ちや、制作された過程などについてお聞かせください。

2019年にお話をいただいたときは企画が壮大過ぎて全く実感が湧かず、正直なところ、まさか！本当に？ という気持ちだけでした。オリンピックに合わせた公開ということでしたので、与えられたテーマ「火」からイメージしたのは「炎」そして「聖火」でした。ただ力強いイメージの中に平和的な要素も加味したいと思い、自分の作品に多く登場する天使や動物のモチーフを使って、試行錯誤しながら制作を進めていきました。

「大壁画」が展示された丸の内という場所について、どのような印象をおもちでしょうか。

今回のお話をいただいてからすぐに、実際の展示場所に足を運びました。東京駅の駅舎を背にして丸ビル、新丸ビルを眺めたとき何か特別な空気感があり、神聖な印象を受けました。皇居に向かって伸びるまっすぐな道の入り口にそびえる両ビルが、ある意味「門」のようだと感じて、この神聖な場所に展示する作品を制作するという引き締まった思いでした。



「火(ignis)」をテーマとした作品(一部)

コロナ禍での開催となりましたが、その影響や気持ちの変化についてお聞かせください。

コロナ禍によって2020年のオリンピック・パラリンピックが延期となり、2021年になっても実際に作品が展示できるのなかなかはつきりせず、落胆の日々が続きました。実際に準備が進められていく過程でも、多くの方に見に来ていただきたいとお誘いできる状況ではありませんでしたので複雑な心境でした。作品に対しては、コロナ禍を焼き尽くして全体が浄化されていくような、そんな思いを抱くようになりました。また、日常的に天を仰ぐ機会は少ないので、上を見上げて見てくださる方の心が開かれていけばと思うようになりましたね。



完成披露発表会で挨拶をする横尾美美さん

今回の反響や今後の抱負をお聞かせください。

巨大な壁画をヨーロッパの大聖堂のようだと表現する方や大きさに圧倒されたという感想が届いています。ただ今回残念だったのは、ビルの窓枠によって作品の全体像が見えにくくなってしまったことです。コロナ禍が収まったら、改めてオリジナル作品で全体像を見ていただける機会を設けられたらいいですね。



「MAZEKOZEアイランドツアー」総合構成・演出・総指揮 東 ちづる氏  
多様性社会の魅力や心地よさ、  
その「気づき」のきっかけになってほしい

## | PROFILE |

あずま ちづる。広島県出身。一般社団法人Get in touch 代表。会社員生活を経て芸能界へ。2012年10月、アートや音楽、映像、舞台等を通じて、誰も排除しない、誰もが自分らしく生きられる“まぜこぜの社会”を目指す、一般社団法人Get in touchを設立し、代表として活動中。

©プロダクションパオ/Production Pao Inc

ONE -Our New Episode- Presented by  
Japan Airlines「MAZEKOZEアイランドツ  
アー」の魅力をお聞かせください。

ジェンダー、年齢、国籍、さまざまなハンディキャップなどの既成概念を超越した、唯一無二の表現者たちによる音楽やパフォーマンスに酔いしれ、アートを堪能し、笑い、共に踊り、歌いながら、色とりどりのカラフルな個性の人たちとの交流を楽しみ、そして同時にモヤモヤも感じてもらいたいと思って制作しました。



自ら出演もしながら、演出を行った

“まぜこぜ”のおもしろさや心地よさを体験し、多様性や共生社会の魅力にふれる、9つの島の冒険の旅です。

コロナ禍における実施の意義、工夫やご苦労を  
された点などについてお聞かせください。

コロナ禍で、分断と格差、対立が深まり、生きづらさを抱える人は急増しました。多くの人々が今こそ連帯する社会が必要だと感じているはずですが、どうすべきかと戸惑っているのが現実です。連帯のためには「多様性」の実感が不可欠で、この映像が自分自身も「多様性」の一員であるということ、その居心地の良さは自分たちでつ

くっていくのだと、気づききっかけになればと思っています。

重なる緊急事態宣言で、出演者が上京できないという事態になり、本当にハラハラしました。構成や撮影日程を変更し、ギリギリ実施に漕ぎ着けました。「最後まで諦めない」ということ、そして「出演したい」というご本人たちの熱意と周囲の協力。コロナ禍だからこそその団結力が功を奏したと思います。

今回のプログラムが、今後、社会にどのような影  
響を及ぼすことを期待しますか？

映像ひとつで国内外に大きく影響を及ぼせるとは思っていませんが、まずは芸能界などのビジネス・エンタメ業界の新しい扉を開ける一助になればと願っています。

障がいがあっても乗り越えられるといった「障がい」が主役となる感動ストーリーばかりでなく、学園や職場、家族に、障がい者やセクシュアルマイノリティも普通に存在しているといったドラマや映画作品、多様なキャストが出演するバラエティー番組、音楽番組が制作されるようになると最高ですね。



自閉症のラッパー-GOMESSと車椅子ダンサーの神原健太をコラボさせた



「しあわせはこぶ旅 モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ  
Presented by ENEOS」クリエイティブディレクター 箭内 道彦氏  
復興を歩む東北の現在と想いを、  
世界に発信する五輪であるように

## | PROFILE |

やない みちひこ。福島県出身。既成概念に捉われない数々の広告キャンペーンを手掛ける。NHK「トップランナー」MCのほか、テレビやラジオのパーソナリティ、ロックバンド猪苗代湖ズのギタリストなど、多岐にわたる活動を常に拡げ続けている。

「復興五輪」を掲げて招致が決まったのは2013年。東北の友人達は怒り、悔し涙を流した。「東北を利用するだけ利用して『復興五輪』をお題目で終わらせたなら許さない」そう僕も思った。オリンピックとは距離を置くと決めていたが、開催を止められないのであれば、東北の人達にとって少しでもやってよかったと思える大会にしなければならぬ。そう考えて引き受けた仕事「しあわせはこぶ旅 モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ」。

巨大人形モッコは、人と人が力を合わせることで動く。1本ずつロープを引き、呼吸を合わせ感情豊かに動かす。それは現在の社会のありたい姿にも重なる。思いも立場も違う人達が、同じ



身長10mを超える「モッコ」

目標に向かい力を合  
わす。そのモッコが、東北の人々のメッセージを預かって東京に運ぶ。陸前高田で受け取ったメッセージに「形の復興は進んだかもしれないけど、心の復興はまだ始まっていないんです」という言葉があった。東北の復興は道半ば。「復



岩手、宮城、福島を巡りTOKYOへ

興五輪」は「復興が完了しました五輪」でなく「復興はまだここまでです五輪」だ。

一見近寄り難くも感じるモッコ。だがと

もに旅を続けるうちに距離が縮まる。僕はそこに我慢強く復興を支え、苦しさを引き受け続けて来た東北人を重ねる。震災で多くの人々が正解のない場所に向き合った。立場の違いで相互不信が芽生え、溝や壁も生まれた。出した答えが違っていても、それぞれの選択は尊重されるべきだ。

当初からあった開催への賛否が生んだ人々の分断を加速させたコロナ。人間が万能ではないことを感じた人は多くいると思う。オリンピックが抱える様々な課題が顕在化したことは、未来のためにこの大会が残す最大のレガシーだ。分断を進めるのではなく、一度離れた者同士がどう繋がり直すのか、そのヒントを探すことも、プログラムの役割だったのだとも思う。災害は今も全国各地・世界各地で起きている。復興を歩む東北の姿が、世界のみなさんに元気と笑顔を送ることができたらと願う。



2021年7月17日 新宿御苑



東京女子大学 現代教養学部 教授 矢ヶ崎 紀子氏

## 分野を超えたつながりができ、 日本文化が大きく花開いた

### PROFILE

やがさき のりこ。北海道出身。住友銀行、日本総合研究所総合研究部門 上席主任研究員、国土交通省観光庁参事官(観光経済担当)、首都大学 東京都市環境学部特任准教授、東洋大学国際観光学部教授を経て、2019年4月から現職。国土交通省交通政策審議会観光分科会会長。

### 日本博の概要とその魅力をお聞かせください。

日本博は2019年から始まった文化プログラムです。目指す方向は複数ありますが、その中心は日本の良さを世界の人々にわかってもらうということです。個人的には、2012年ロンドン大会のときの文化プログラムを超えたいという想いもありました。今回は、全国すべての都道府県で実施でき、地域それぞれの日本の素晴らしさが多様に花咲いたことが日本博の魅力となりました。

### 期せずしてコロナ禍での開催となりましたが、その意義についてお聞かせください。

まず実績として、コロナ禍という非常に大変な状況に直面しながらも、実施団体の皆さまが凄く工夫をされて、予定していたプログラムの8割以上が実施されたということ。これは強調しても、し過ぎることはないと思っています。想定外のリスクの中での開催だったからこそ、実施団体がそれぞれに開催意義を見つめ直し、日本博の「多様な花」の根っこ部分がしっかりと、これまで以上に濃く大きな花を咲かせたと。また、当初は海外の方に直接見て知ってもらうことを計画していましたが、コロナ禍でそれができなくなり、見てもらえる人々の範囲を狭くしたことが、かえって文化と、観光や商業などの他分野の人々を結びつけることにプラスに作用したと思います。

### 日本博が日本国内に及ぼした影響についてお聞かせください。

日本博の事業でデジタル化が進んだこと、そしてオンライン配信を海外に届けたことが、日本の文化芸術の魅力を再構築することにつながりました。オンラインで海外の人々からリアルタイムの反応をもらうことで、自分たちが気付かなかった魅力を発見できることもあり、そうした様々な気付きを得られたのは大きいと思います。

### 各事業主体がコロナ禍において工夫されたことや大変だったこと、反対に良かったことなどもお聞かせください。

コロナ禍に体制を十分整えて実施したことを評価しています。この経験を今後このような意義のある大きなイベントを実施するときに継承して欲しいと思います。今回現場では共通して安心安全確保のための想定外のコストがかかっており苦労をされていますが、そういったなかでも出来ることはやろうという前向きな努力は、将来につながるレガシーであると考えます。また、実際の企画展に行くと、事前の予約で時間ごとに人数がコントロールされてゆったりと見ることができると、文化芸術に接する際の経験価値はぐんと質が上がったと感じました。



文化政策研究者、同志社大学 経済学部 教授 太下 義之氏

## 全ての都道府県で実施され、 民間も含めて多様な主体が参加した

### PROFILE

おおした よしゆき。東京都出身。2020年オリンピック・パラリンピック文化プログラム静岡県推進委員会副理事長、鶴岡市食文化創造都市アドバイザー等、地方自治体のアドバイザーや委員を多数務める。著書『アーツカウンシル』(水曜社)等。

### 日本博の特徴をお聞かせください。

東京2020大会の文化プログラムは、2012年のロンドン大会のときとは違って、オリンピック・パラリンピック開催に関わるステークホルダーがそれぞれ独自にプログラムを進めたという点が大きな特徴となっています。こうした背景のもとで、日本博は実質的に文化プログラムの一つとして位置付けられると考えます。

特に、日本博はすべての都道府県で行われたという点、非常に幅広い分野を包含するプログラムであったという点、そして、民間企業も含めて多様な主体が主体的に参画した文化プログラムだったという点が特徴として挙げられます。

### 日本博がどのような成果やレガシーを残したのかお聞かせください。

まだ日本博は継続していますので、現時点での成果・レガシーとなりますが、1つめは、新しいパートナーシップやコラボレーションの構築です。例として従来はなかった工芸とアールブリュットを結びつけた展示会「GO FOR KOGEI」が挙げられます。こちらは富山県、石川県、福井県という北陸3県のプログラムで、まさに文化と観光をつなぐ好事例です。2つめは、最先端技術の導入です。代表的試みとしては新国立劇場で実施された子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペ

ラ「Super Angels スーパーエンジェル」が挙げられます。3つめは、今後のアーティストの育成や振興に寄与する新しいロールモデルの形成です。これについては、大阪で実施されたダンスドラマ「Breakthrough Journey」が相当すると考えています。障害の有無に関わらずやりたいことを目指す、そのような場を設定できたのは大きな成果、レガシーになり得ると思います。4つめは、それぞれの地域などにおけるシビックプライドの醸成です。北海道白老町にオープンした「ウボポイ」とそこで開催されている文化芸術交流プロジェクトが1例です。最後5つめは、インターネット配信等によって間接的にでも参画できる人が飛躍的に拡大しました。また、コンテンツをデジタル化することによって、後世への継承も可能となりました。これはコロナ禍に一矢報いた成果だと思っています。

### 今後の日本博への期待についてお聞かせください。

2021年のオリンピック・パラリンピック、2025年の大阪・関西万博と、世界的イベントが非常に近接して開催されるという珍しい状況にあります。日本博事業も2025年を見据え、アーティストや芸術団体が日本博を通じて得たレガシーを活かした事業を展開し、コロナの影響が収まった暁においては日本博が本来与えられていた役割を存分に発揮することを期待しています。

## Tokyo Tokyo FESTIVAL SPECIAL



### 多くの人々の記憶に残る文化プログラムを目指した 「Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13」 斬新で独創的な13のプログラムを展開しました

Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13はオリンピック・パラリンピックが開催される都市東京を文化の面から盛り上げるため、公募により国内外から応募のあった2,436件から選ばれた13のプログラムです。2019年から一部のプログラムを実施、2020年は新型コロナウイルスの影響で事業の延期を余儀なくされましたが、2021年は感染対策を講じながら、9月まで様々なジャンルを横断し、獨創性に富み、未来を切り開くチャレンジ精神溢れるプログラムを都内各所で展開しました。

実施プログラム：東京大壁画、まさゆめ、パピリオン・トウキョウ2021、光の速さ-The Speed of Light-、ザ・コンスタント・ガーデナーズ、Light and Sound Installation “Coded Field”、TOKYO SENTO Festival 2020、TOKYO REAL UNDERGROUND、DANCE TRUCK TOKYO、世界無形文化遺産フォーラム、放課後ダイバーシティ・ダンス、隅田川怒涛、漫画「もしも東京」展

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

## 東京大壁画



「東京大壁画」Drill Inc.

参加アーティスト：横尾忠則、横尾美美  
企画・運営：株式会社ドリル

### 「丸ビル」と「新丸ビル」が 巨大なキャンパスに変貌

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」のシンボルメッセージを目指して企画された世界最大級のパブリックアートです。東京駅前にある2つのビルの壁面を一对の巨大キャンパスに見立て、高さ約150m、横幅約35mの巨大壁画アート2作品を展示。インパクトのある壮大なアートを都市空間に展開し、人々の記憶に残る文化プログラムとして、芸術文化都市東京を力強く世界に発信しました。

●2021.7.17-9.5

●丸の内ビルディング、新丸の内ビルディング

## まさゆめ



《まさゆめ》目 [mé], 2019-21 撮影：金田幸三

企画：目 [mé]

### 巨大な顔が空に浮かぶ 圧倒的な風景が出現

現代美術チーム・目 [mé]による東京を舞台にした作品で、世界中からひろく「顔」を募集し、選ばれた「実在する一人の顔」を2021年の東京の空に浮かべました。巨大な顔が、突如として東京の空に浮かんだその謎めいた圧倒的な景色は、多くの人々にインパクトを与えました。

●2021.7.16、8.13

●代々木、隅田川周辺

## パビリオン・トウキョウ2021



### 2021年夏の東京に現れた 9つのパビリオン

新国立競技場を中心とする複数の場所に、世界各地で活躍する建築家やアーティストが設計したパビリオンを設置し、自由に新しい都市のランドスケープを提案した世界初の試みです。鑑賞者は、地図を片手に宝探しのよう、あるいは散歩のかたわらに、クリエイターたちによる未来への願いが込められたパビリオンを巡ることができ、東京の都市としての魅力と日本建築の魅力を実感する絶好の機会となりました。

参加クリエイター：  
藤森照信、妹島和世、藤本壮介、平田晃久  
石上純也、藤原徹平、会田誠、草間彌生  
(特別参加)真鍋大度+Rhizomatiks  
共催：  
パビリオン・トウキョウ2021実行委員会

📅 2021.7.1-9.5  
📍 新国立競技場周辺エリアを中心に東京都内9ヶ所

## 光の速さ-The Speed of Light-



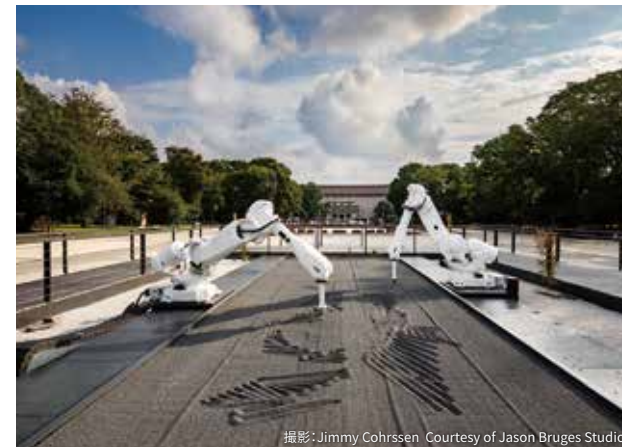
作・演出：マルコ・カナール

### 東京という都市を見つめ、 未来を想像させる演劇

アルゼンチンの演劇・映像作家マルコ・カナールが手がける演劇プロジェクト。公募により集まった都内在住の65歳以上の出演者とともに東京の街を巡るツアー型演劇です。制作にあたり「東京」の文化や歴史、個人史に焦点をあててリサーチを重ね、過去・現在・未来の世界が交錯する物語を練り上げました。観客は、出演者の案内で移動しながらパフォーマンスを観劇しました。

📅 2021.5.22  
📍 世田谷区太子堂周辺各所、太子堂八幡神社 野外特設ステージ

## ザ・コンスタント・ガーデナーズ



撮影: Jimmy Cahrssen Courtesy of Jason Bruges Studio

企画・制作：ジェイソン・ブルーージュ・スタジオ

### ロボット工学・日本の庭園 文化・スポーツが融合

産業用ロボットアームが様々なスポーツ競技におけるアスリートの動作を取り込んで、“ガーデナー(庭師)”として巨大な砂利のキャンパスに庭園景観を砂紋で表現する、ロボット工学と日本の庭園文化、そしてスポーツを融合させたインスタレーションです。大会期間中、約150パターンもの独創的な作品を作り上げ、訪れた人々は、伝統と未来をつなぐこの作品が生み出す様々な景観を楽しみました。

📅 2021.7.28-9.5  
📍 上野恩賜公園 竹の台広場



## Light and Sound Installation “Coded Field”



Light and Sound Installation “Coded Field” (2019) 写真提供:ライゾマティクス

参加アーティスト：ELEVENPLAY、坂本美雨(声の出演)  
企画制作：Rhizomatiks

光と音が織りなす  
都市と人々の饗宴

港区芝の浄土宗大本山増上寺を中心に最新のメディアテクノロジーとGPS、位置情報測定システムを同時に複数使うなど通信技術を組み合わせ光と音のアート空間を創出。参加者は今回のために開発されたバルーン型デバイスを持って会場を回遊しながらインスタレーションを体験するとともに、ライブパフォーマンスを楽しみました。

- 📅 2019.11.16
- 📍 浄土宗大本山増上寺、港区立芝公園、東京都立芝公園

## TOKYO REAL UNDERGROUND



Photo by Takuya Matsumi

参加アーティスト：伊藤キム、尾竹永子、川口隆夫、ウィリアム・クライン、小林勇輝、酒井直之、佐藤ベチカ、田辺知美、HAUS、吉本大輔 ほか(50音順)  
企画・運営：NPO法人ダンスアーカイヴ構想

日本発祥の「舞踏/BUTOH」  
のフェスティバル

1960年代の日本に生まれ、世界に広まった身体表現「舞踏/BUTOH」をテーマに、現在の視点から再考し、公演・展示プログラムをオンライン中心に実施。国内外で活躍するアーティストたちが、白塗りにゆっくりとした動きといった従来の「舞踏」のイメージに捉われず自由な発想でダンスや音楽、映像等様々なジャンルを横断するパフォーマンスで表現し、より広い層に訴求しました。

- 📅 2021.4.1-8.15
- 📍 オンラインおよび都内複数カ所

## TOKYO SENTO Festival 2020



参加アーティスト：青木尊、大塚いちお、大原大次郎、星清美、ヤマザキマリ(50音順)  
企画・運営：TOKYO SENTO Festival 2020実行委員会

ホッとするアートな銭湯！  
“銭湯文化”を世界に発信

日本の生活文化である銭湯を舞台に、漫画・現代アート・アールブリュットなど多様なジャンルのアーティストと生活の中でアートに触れる機会を創出するプロジェクト。「ほっと一息つきながらアートを楽しむ」という新しいアートと銭湯の楽しみ方を、多くの方に体験していただきました。

- 📅 2021.5.26-9.5
- 📍 東京浴場組合加盟全銭湯

## DANCE TRUCK TOKYO



photo by bozzo

企画・運営：全日本ダンストラック協会

トラックで繰り上げられる  
先鋭的なダンス体験

輸送トラックがテンポラリーな「劇場」へと変貌。多分野の先鋭的なアーティストによるパフォーマンスが都内各所で展開されました。トラックの荷台は身体、光、音が一体となった「装置」となり、周りの環境とも呼応しながら、東京の多様な景観を取り込んだサイトスペシフィックな光景が多くの人々を魅了しました。

- 📅 2019.9.5-2021.9.5
- 📍 新宿、足立、渋谷、府中、高輪\*、築地\*、立川、東大島、八丈島\*
- \*無観客撮影・配信

## 世界無形文化遺産フォーラム



企画・制作：公益社団法人全日本郷土芸能協会

### 国内外の貴重な 無形文化遺産を紹介

2019年に五大大陸6か国で行ったリサーチをもとに、世界各地の民族芸能について紹介したほか、国内からは東北復興の願いをこめて岩手、宮城、福島之歌と踊りを映像を通して披露し、ステージでは東京の太鼓が演奏されました。また、民族芸能等に造詣の深いゲストを迎え、風土に根差した世界無形文化遺産の重要性や魅力について、様々な視点でトークが繰り広げられました。

- 📅 2021.8.1
- 📍 ヒューリックホール東京

## 隅田川怒涛



企画・運営：NPO法人トッピングイースト

### 隅田川を舞台に見立てた 音楽とアートの祭典

隅田川周辺を舞台として日本を代表するアーティストが、春と夏の2期にわたり、音楽、パフォーマンス、インスタレーションをオンライン中心に展開。隅田川周辺の施設や空間を活用した様々なプログラムを通じて、人々が怒涛のように混ざり合う姿を、世界中の人々に発信しました。

- 📅 春会期：2021.5.22,23
- 夏会期：2021.8.13-9.5
- 📍 隅田川周辺

## 放課後ダイバーシティ・ダンス



企画・運営：ADD実行委員会

### 子供たちが地域文化に 触れ、ダンスを創作

都内3地域を舞台に、各分野の第一線で活躍するプロの舞踊家とともに、子供たちが各地域に伝わるダンスにまつわる文化や人々に触れながら、ダイバーシティ(文化的多様性)を体験し、子供たち自身がダンス作品を創作し発表するプロジェクト。子どもたちは、ストリートダンスから国内外の伝統舞踊まで多岐にわたる舞踊をワークショップ形式で習い、振付・創作に挑戦、「創る」楽しさを体感しました。

- 📅 2019.9-2021.8
- 📍 港区、国立市、日の出町、オンライン

## 漫画「もしも東京」展



参加漫画家：浅野いにお、安倍夜郎、石黒正数、石塚真一、市川春子、岩本ナオ、太田垣康男、大童澄瞳、奥浩哉、小畑友紀、黒田硫黄、咲坂伊緒、出水ぼすか、萩尾望都、原光一、松井優征、松本大洋、望月ミネタロウ、山下和美、吉田戦車(50音順)

### “もしもの東京”がテーマの 20の描き下ろし漫画作品

現在の日本を代表する20名の漫画家たちが、“東京”をテーマに描き下ろした20作品を展示するアートプロジェクト。“読む東京、歩く漫画”をコンセプトに、点在する展示作品を巡るように鑑賞する、新しいカタチの漫画展。漫画家たちの豊かな想像力と表現力で描かれた、誰も見たことがない「もしも東京」は、多くの人々を魅了し、記憶に残るものとなりました。

- 📅 2021.8.4-9.5
- 📍 東京都現代美術館

## 東京キャラバン



東京キャラバン〜プロlogue〜(2015年) 撮影:井上嘉和

多様なアーティストが  
ジャンルを超え“文化混流”

総監修・野田秀樹氏のもと、「人と人が交わるところに新しい文化が生まれる」をコンセプトに、全国各地でパフォーマンスを創作して展開。都の文化プログラムを先導するリーディングプロジェクトとして2015年に開始し、芸術文化界で活躍する様々な著名人や新たな可能性を持った若き表現者たちが参加し、圧倒的なパフォーマンスで多くの人を魅了しました。

●2015-2021

◎東京・駒沢、リオデジャネイロ、東北(仙台・相馬)、六本木、京都(二条城・亀岡)、八王子、熊本、豊田、高知、秋田、いわき、埼玉、富山、岡山、北海道

## TURN



TURNフェス3(2017年) 撮影:伊藤友二

東京2020 NIPPONフェスティバル

多様な人々の出会いを  
表現として生み出す

日比野克彦氏監修のもと、障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を、表現として生み出すアートプロジェクト。都の文化プログラムを先導するリーディングプロジェクトとして2015年に開始し、アーティストと福祉施設等との共働活動を通して一人ひとりが“その人らしさ”を尊重できる豊かな社会の創造を目指した取組を展開しました。

●2015-2021

◎東京都美術館、東京都内各所

## オペラ夏の祭典2019-20 Japan ↔ Tokyo ↔ World



©堀田力丸

代表的な劇場が連携した  
国際的オペラプロジェクト

大野和士氏による総合プロデュースのもと、東京文化会館と新国立劇場が初めて共同制作を行い、日本を代表する各地の劇場と連携して展開した国際的なオペラプロジェクト。2019年はアジアが舞台となる「トゥーランドット」を上演、24年ぶりに来日したバルセロナ交響楽団がオーケストラピットに入り、祭典を盛り上げました。

●2019-2021

◎東京文化会館、新国立劇場、びわ湖ホール、札幌文化芸術劇場 hitaru

TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL  
[サラダ音楽祭]

OK!オーケストラ(2021年) ©東京都交響楽団

赤ちゃんから大人まで  
誰もが楽しめる音楽祭

誰もが音楽の楽しさを体感・表現できる音楽祭として2018年に誕生。サラダ=SaLaDの由来であるSing and Listen and Dance〜歌う!聴く!踊る!をコンセプトに、東京都と東京都交響楽団が、東京芸術劇場及び豊島区と連携し、コンサートやワークショップなど、フレッシュで多彩なプログラムを展開しています。

●2018-

◎東京芸術劇場、池袋エリアほか

## FUROSHIKI TOKYO



### 日本人の知恵と美意識 風呂敷を現代にアップデート

風呂敷は1枚の四角い布であり、世界最初のエコバッグです。風呂敷には、おもてなしの心や日本人の知恵と美意識が詰まっています。都立文化施設等で展示やワークショップを開催するとともに、選手村では選手や大会関係者に気軽に風呂敷を手にとってもらうことで、日本の文化の魅力とともに、環境問題や防災対策に取り組む都市・東京のメッセージを発信しました。

- 📅 2019-2021
- 📍 選手村、江戸東京博物館、江戸東京たてもの園等

## 東京都メディアセンターでの文化発信



### 海外メディアに 伝統文化の魅力を発信

海外記者等の取材拠点において、日本の伝統文化・芸能を紹介、体感いただく機会を提供しました。茶道や華道、能楽、箏曲等の映像を放映するとともに、着物(十二単)や創作人形、鎧兜、風呂敷等を海外の方にも分かりやすく展示しました。また、能楽、箏曲のミニ鑑賞会を実施し、日本・東京の多様な伝統文化や伝統芸能の魅力を発信しました。

- 📅 2021.7.21-8.9、8.23-9.5
- 📍 東京都メディアセンター

## TOKYO CULTURE LIVE STUDIO



### 日本の伝統文化、 伝統芸能を気軽に体感

東京2020ライブサイトの見直しに伴い、会場特設ブースにて予定していた文化体験や紹介に替わり、伝統文化・芸能等のパフォーマンス映像やデモンストレーション映像を気軽に視聴できるウェブサイトを開発。茶道や華道、能楽や雅楽といった日本の伝統文化・芸能、折り紙や浮世絵の手刷り、風呂敷や玉すだれ等の気軽に楽しめるメニューを通して、国内外の視聴者に日本の文化をご自宅からも楽しんでいただきました。

- 📅 2021.7-12
- 📍 オンライン

## 東京大茶会



### だれでも気軽に楽しめる 趣ある大規模な茶会

都内の野外博物館と庭園において、様々な流派が一堂に会して催される大規模な茶会です。お茶の文化とそれを育んできた江戸・東京の文化を国内外へ発信。茶道に馴染みのない方や外国の方でも気軽に楽しめます。“東京の秋の風物詩”として親しまれている茶会です。

- 📅 2008-。新型コロナウイルス感染症の影響で2020年は中止。
- 📍 浜離宮恩賜庭園、江戸東京たてもの園

東京大茶会2019

## 六本木アートナイト



©六本木アートナイト実行委員会

### 六本木の街を舞台にしたアートの饗宴

六本木の街に、アート作品のみならず、デザイン、音楽、映像、パフォーマンスなどを含む多様な作品を点在させ、非日常的な体験を創出するアートの祭典です。大都市における街づくりの先駆的なモデルの創出を目的に年々発展しています。

日本博

beyond2020

●2009- ●六本木ヒルズ、森美術館 など

## GENKYO 横尾忠則

原郷から幻境へ、そして現況は？



### 創造の全貌を目の当たりにする、集大成の展覧会

1960年代からつねに第一線で活躍してきた、アート界のレジェンド、横尾忠則。横尾はすべての人間の魂のふるさと「原郷」から涙み上げた、豊かで奔放なイメージの世界「幻境」を、数多の独創的な絵画に描き出してきました。その集大成の展覧会です。

日本博

beyond2020

●2021.7.17-10.17 ●東京都現代美術館

## みんなの発表会

都民パフォーマンスコーナー「トパコ」



### 都民の誰もが参加できる新しい発表の場

トパコは、民間企業からの協力を得て様々な場所を活用し、都内で活動するアマチュア団体の日頃の練習成果を発表する場を創り出すことを目的とした事業です。都民による芸術文化活動の発表を通して、オリンピック・パラリンピックが開催される東京の文化の魅力を発信しました。

●2017.3-2021.3 ●渋谷ストリーム前 稲荷橋広場 など

## 新・晴れた日 篠山紀信



《晴れた日》1974年 東京都写真美術館蔵

### 60年間の仕事を振り返る、初の大規模回顧展

雑誌をはじめとする出版文化の隆盛を代表する存在として、1960年代から活躍を続ける篠山紀信の、初となる大規模回顧展です。1974年の代表作「晴れた日」は、広範に社会の動きを捉えた時代の先鋭的な批評となっており、篠山紀信の特徴を凝縮した一冊。そのコンセプトを使って、60年間の仕事を振り返りました。

●2021.5.18-8.15 ●東京都写真美術館

## イサム・ノグチ 発見の道



### ノグチ芸術のエッセンスを体感できる展覧会

日本人の父とアメリカ人の母との間に生まれ、アイデンティティの葛藤に苦しみながら、独自の彫刻哲学を打ち立てた、20世紀を代表するアーティスト、イサム・ノグチ(1904-1988)。晩年の独自の石彫に至る「発見の道」を様々な作品で辿る展覧会です。

日本博

●2021.4.24-8.29 ●東京都美術館

## 特別展

「大江戸の華—武家の儀礼と商家の祭—」



黒塗梅唐草丸に三階菱紋散荷絵女乗物 江戸末期 江戸東京博物館蔵

### 世界有数の大都市、江戸の活発かつ明るい一面に迫る

推定で100万人もの人口を擁した都市、江戸に暮らした武家や商人・町人の儀礼、祭礼、婚姻など、「ハレ」の場面や舞台上に注目し、活発で明るい江戸のすがたを明らかにします。当館所蔵の優品・初出品の資料、華やかで見ごたえのある資料を中心に展示されました。

日本博

beyond2020

●2021.7.10-9.20 ●江戸東京博物館

## ルネ・ラリック リミックス —時代のインスピレーションをもとめて



チョーカー／ブローチ《シルフィード》1900年頃、個人蔵  
協力：アルピオンアート・ジュエリー・インスティテュート

### ルネ・ラリックの多様なインスピレーションの源に着目

ジュエリー作家／ガラス工芸家という肩書を超えて、芸術家としての独自の道を切り拓いたルネ・ラリック(1860-1945)。時代の変化に対応して、希少なジュエリーからより生活に身近なガラス作品へと転換したラリックがどのように世界を観照し、装飾という芸術を希求したのかを明らかにしました。

●2021.6.26-9.5 ●東京都庭園美術館

## 企画展

「相撲の錦絵と江戸文化」



「小野川 谷風 引分の図」勝川春英／画1791年(寛永3)頃 江戸東京博物館蔵

### 相撲錦絵を中心に、江戸の相撲の多様な魅力を紹介

江戸時代、相撲は庶民の娯楽の定番となり、18世紀末には人気力士たちが華々しく活躍する黄金期を迎えます。時を同じくして人々を魅了したのが錦絵です。そして力士ごとに異なる体形や顔の特徴を捉えた相撲錦絵が登場。今日、日本を代表する「スポーツ」と「芸術」に発展した、相撲と錦絵の関係に着目しました。

●2021.7.17-9.5 ●江戸東京博物館

## アンサンブルズ東京



アーティストと一般参加者が一緒に演奏する音楽の場。音楽家・大友良英氏のディレクションのもと、全ての参加者が、それぞれの立場やあり方を超えて、自分たちの手で音楽の場を作り上げることを目指した参加型の音楽祭です。事前にワークショップを行い、イベント当日は一般参加者とアーティストが共にステージに上がり、演奏を繰り広げました。

📅2015-2020 📍東京タワーほか、オンライン配信

## ヘブンアーティスト



気軽に音楽演奏やパフォーマンスを楽しむ場を提供。ヘブンアーティストとは、東京都が実施する音楽・パフォーマンスの専門家による審査に合格しライセンスを交付されたアーティストです。東京都の指定する公園などの公共の場所で音楽演奏やパフォーマンスを行い、気軽に文化芸術に触れる機会を提供しています。

📅2002- 📍都内各地(54施設73か所)

## Shibuya StreetDance Week



渋谷から国内外へ、ストリートダンスの魅力を発信。表現者(ダンサー)、参加者(オーディエンス)、舞台(ステージ)を繋ぎ、幅広い層に支持される新しい芸術文化としてストリートダンスのポジショニングを確立し、ダンサーの聖地である渋谷からその魅力や本質的な価値を国内外へ発信。活力に溢れた街をつくることを目的に開催しているストリートダンスの祭典です。

📅2015- 📍代々木公園ほか、オンライン配信

## パフォーマンスキッズ・トーキョー



アーティストを派遣。子供が主役の舞台作品を創作。ダンスや演劇、音楽などのプロのアーティストを、学校やホール等に10日間程度派遣。ワークショップを行い、子供たちが主役のオリジナルの舞台作品を作り上げ、最終日に発表公演を行います。アーティストが子供の発想を活かしつつ作品を創作する過程で、子供たちの創造性や自主性を育み、コミュニケーション能力を高めます。

📅2008- 📍都内小中学校、都内ホール

## 東京芸術祭



野外劇『NIPPON・CHAI CHAI CHAI』撮影:住田磨音

東京の芸術文化の魅力を発信する都市型総合芸術祭。東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した都市型総合芸術祭です。豊島区池袋エリアを中心に舞台芸術フェスティバルを展開。演出家宮城聡総合ディレクターのもと7人の部門ディレクターが協働する体制をとり、個性豊かな演目を揃え、東京における芸術文化の創造力向上を目指しています。

📅2016- 📍東京芸術劇場、あうるすぽっと ほか

東京芸術祭特別公演  
ファンタスティック・サイト

大駱駝艦・天賦典式『Crazy Camel Garden』撮影:川島浩之

日本発「舞踏」とダンスパフォーマンス。東京には「江戸」から「東京」へ、発展していった境目が垣間見える場所があります。その東京の歴史を感じられる場所=サイトにおいて、パフォーマンス・アーツのジャンルの一つとして世界的に評価された日本発の身体表現「舞踏(暗黒舞踏)」や、その流れを汲むダンサーによるパフォーマンスを上演しました。

📅2020-2021 📍東京都庭園美術館・芝庭、オンライン配信

伝承のたまてばこ  
～多摩伝統文化フェスティバル～

東京・多摩地域の伝統文化の魅力を発信。車人形、お囃子、農村歌舞伎、影絵をはじめ、伝統文化・芸能に馴染みのない人々も気軽に楽しめる多彩なプログラムで、多摩地域の伝統文化の魅力を発信。屋外ステージでの公演や、街なかでの演奏会など、文化の新旧・和洋の共演による新たな体験です。

東京2020 NIPPONフェスティバル

📅2016- 📍八王子・多摩地域、オンライン配信

## 神楽坂まち舞台・大江戸めぐり



神楽坂エリアを舞台とした伝統芸能ライブ。伝統と現代が融合する神楽坂エリアの毘沙門天善國寺や赤城神社、神楽坂通り、石畳の路地などを舞台に、粋でスタイリッシュな伝統芸能ライブを開催。また、芸者衆とのお座敷遊び体験、スタンプラリーなど、外国の方や若い世代の方も、誰もが気軽に楽しく日本の伝統文化・芸能、そして「まち」と出逢える2日間です。

📅2018- 📍神楽坂エリア、オンライン配信

## 「わっさい

オンライン上でみんなが「わ」になり、  
和を生み出す特別なお祭り

オリンピック開幕直前期のプログラムとして、「参加と交流」をテーマに、日本文化を通じて様々な人々が交流するオンラインイベントを、バーチャルオリンピックスタジアムで実施。事前に全世界から投稿されたイラストがバーチャル空間上でアバターとなり、ステージパフォーマンスと共に参加者がみんなで踊ることを通じて、世界中の人々が「新しい祭り」を共に創り交流できるプログラムを目指しました。

総合演出：菅野こうめい

🕒 2021.7.18 📺 オンライン配信



## 「ONE -Our New Episode- Presented by Japan Airlines- MAZEKOZEアイランドツアー

9つの個性的な島を旅することで、まぜこぜ  
(多様性)のおもしろさや心地よさを体験

「共生社会の実現に向けて」をテーマに、エンターテインメントの力によって多様性や共生社会の魅力をユニークに表現した9つの個性的な島を旅することで、まぜこぜのおもしろさや心地よさを体験を視聴者に提供しました。

総合構成・演出・総指揮：東ちづる

🕒 2021.8.22 📺 オンライン配信

日本博

## 「しあわせはこぶ旅

モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ Presented by ENEOS

モッコが復興への思いをつなぐロードストーリー

2021年5月から7月にかけて、「東北復興」をテーマに、東北各地及び東京を舞台とした文化プログラムを実施。イベントに向けて作られた10メートルの巨大人形「モッコ」が東日本大震災以降、世界各国から寄せられた支援への感謝や力強く復興に向かいつつある姿、東北文化の魅力や、東北の人々の思いを乗せたオリジナル楽曲「とうほくの幸」とともに発信し、復興オリンピック・パラリンピックに大きく貢献しました。

クリエイティブディレクター：箭内道彦

🕒 2021.5.15 岩手県陸前高田市、5.22 宮城県岩沼市、5.29 福島県南相馬市、7.17 新宿御苑(オンライン配信)



日本博

## キャナルアートモーメント品川 ～Art Empowerment～



運河を会場に、伝統文化・芸能コンテンツを展開

天王洲運河を先進的で斬新な会場空間として仕立て、運河上に係留した台船をステージ及び客席として活用。ビル壁面に投影するプロジェクションマッピング映像の演出とともに、日本の伝統文化・芸能コンテンツを、国内外の観光客、近隣の住民や就業者に届けました。

beyond2020

🕒 2021.8.28 📺 オンライン配信

## 完全版マハーバーラタ ～愛の章／嵐の章



インド古代叙事詩「マハーバーラタ」を全編舞台化

世界三大叙事詩のひとつであり、アジア哲学の源「マハーバーラタ」を上演。ふたつの部族による対立の物語を現代社会に重ね合わせながら描き、善悪・生死・愛・戦いなど人間のあり方を問うテーマを織り込みつつ「平和」「共生」のメッセージを発信しました。アジア人による全編上演は世界初となりました。

🕒 2021.8.20-8.23 📺 なかのZERO 大ホール

## 国立競技場の木が奏でるコカリナコンサート ～世界中の友達に平和を～



響けコカリナ！子ども達と平和な世界を祈って

コカリナは木製のオカリナです。日本の音楽家、木工家の手によって豊かな音色、幅広い音域を奏でられる楽器として進化しました。このコンサートでは、国立競技場の建替えのために伐採された木からできたコカリナを子ども達と共に奏で、コロナ禍にいる世界中の子ども達が、一日も早く平和な日常を取り戻せるよう響かせました。

🕒 2021.8.22 📺 新宿文化センター

## インクルーシブNIPPON shinagawa発2020能・狂言特別公演



共生社会の実現に向け、日本伝統演劇の可能性を発信

能楽の分野でユニークな活動を続ける2団体による能狂言特別公演。障がいの有無、年齢や国籍に関わらずあらゆる人が出会い、共に楽しみ、新たな価値を発見する共生社会の実現に向け、日本が世界に誇る伝統演劇である能楽のインクルーシブな可能性をオリンピック競技開催地の品川区から世界へ向けに発信しました。

🕒 2021.8.1,22,28 📺 国立能楽堂、喜多能楽堂

## プレミアムよさこいin東京



日本を代表する祭り「よさこい」の魅力を世界に発信。世界33の国や地域へ広がる日本を代表する祭り「よさこい」の、国内外の文化と融合した多彩な魅力を、LIVE配信を通じて世界に発信。各地域を代表するチームの演舞や、視聴者参加型の総踊り等のプログラムを実施しました。多くの人々の視聴を通して、東京2020大会の開幕に向けて大きなエールが送られました。

2021.7.4 オンライン配信

## 「現代日本画の系譜—タマビDNA」展



### 多摩美の日本画で継承される精神を展観

日本画はこの国で1000年以上続く伝統的な絵画様式。時代により変容しながらも今日まで受け継がれてきたのは、この様式が日本の風土や日本人の美意識、精神性に合っていたからといえます。展覧会を通じて世界の人々に日本人の心のありように触れてもらい、日本画および日本文化の魅力を世界に発信しました。

2021.4.3-6.20 多摩美術大学美術館ほか

## 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 安全祈願奉納流鏝馬



### 大会の安全な開催と成功を祈念した流鏝馬を実施

会場では実況アナウンスとともに、流鏝馬の歴史や見所などを日本語と英語で解説。またその様子をライブ配信するとともに、流鏝馬の映像作品を制作してオンライン配信することで、自宅でも流鏝馬を見て、その魅力を理解できるような環境が提供されました。

日本博

beyond2020

2021.7.17 オンライン配信

## 江戸東京の芸能 DiscoverTokyo



### 江戸・東京の伝統芸能を、世界・全国に発信

東京2020大会を機に、江戸・東京の伝統芸能を幅広い世代で親しんでもらい、その魅力を伝えるために実施されました。ボクシング会場(国技館)に隣接する江戸東京博物館の展示企画とも連携し、オリンピック開催期間中、日本の伝統文化を世界に、全国に発信しました。

beyond2020

2021.7.23-8.7(期間中土日祝開催) 江戸東京博物館

## 特別展「富嶽三十六景への挑戦 北斎と広重」

beyond 2020

### オンラインで鑑賞できるVRコンテンツを配信

葛飾北斎の代表作「富嶽三十六景」全点とともに、北斎を乗り越えようとした歌川広重の作品もあわせて展示し、日本人が古くから親しみ、崇めてきた富士山をはじめとする風景画に、二人の絵師がどう挑んだのかを浮き彫りにします。フォトスポットを特設、直接会場に来られない人々にも展示室を体感し、作品鑑賞できる機会を提供するためにVRコンテンツを制作・配信しました。

2021.4.24-6.20 江戸東京博物館

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、朝日新聞社、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会



「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」葛飾北斎/画 天保2~4年(1831~33)頃 江戸東京博物館蔵

## 生誕260年記念企画 特別展 「北斎づくし」イマーシブシアター

### 最先端技術による劇場型デジタル展示を実現

北斎の代表作である『北斎漫画』『富嶽三十六景』『富嶽百景』の全頁(ページ)・全点・全図が一堂に会する前代未聞の特別展。全点展示に加え、最先端の画像処理技術と高精度アーカイブ技術をふんだんに使用した、イマーシブな劇場型デジタル展示を実現しました。

2021.7.22-9.17 東京ミッドタウン・ホール

主催：凸版印刷、日本経済新聞社、博報堂DYメディアパートナーズ、テレビ東京、BSテレビ東京 特別協力：浦上蒼穹堂 協力：山口県立萩美術館・浦上記念館、公益財団法人 山形美術館、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社



©特別展「北斎づくし」 撮影：凸版印刷株式会社

## HOKUSAI

### 世界でも有名な画狂の絵師・葛飾北斎の生涯を描いた映画

マネ、モネ、ゴッホ、ゴーギャンなど数々のアーティストに影響を与え、西洋近代絵画の源流となった、葛飾北斎の知られざる生涯を映画として初めて描いた作品です。

2021.5.28- 都内劇場施設

監督：橋本一 出演：柳楽優弥、田中泯、阿部寛、永山瑛太、玉木宏 ほか 配給：S・D・P 製作：「HOKUSAI」製作委員会



©2020 HOKUSAI MOVIE



## 特別展「きもの KIMONO」



特別展「きもの KIMONO」ギャラリートーク

「きもの」の変遷をたどり、日本人の生活文化を紹介  
日本を代表する衣服として着用され続けてきた「きもの」に注目。鎌倉時代から現代に至るまでの変遷をたどり、自然から生まれた色・模様・形といった形態を通して、四季と自然をいとおしんできた日本人の生活文化を紹介しました。

beyond 2020

📅 2020.6.30-8.23 📍 東京国立博物館 平成館

## 特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」



会場風景

国宝 聖林寺十一面観音、大神神社に伝わる文化財  
奈良時代作の聖林寺の十一面観音菩薩立像は、厳かな表情や、均整の取れた堂々とした身体表現から、日本の仏像を代表する名品と評価されています。この展覧会では他に、由縁のある大神神社に伝わった文化財や、三輪山を神として崇める自然信仰を紹介しました。

beyond 2020

📅 2021.6.22-9.12 📍 東京国立博物館 本館 特別5室

## 特別展 工藝2020—自然と美のかたち—及びKōgei Dining



室瀬和美 柏葉蒔絵螺鈿六角舎子 2014年 個人蔵

自然との関係をテーマとした工芸の価値、その美しさ  
世界から高い評価を得ている日本の現代工芸作品を、自然と工芸の関係をテーマに展示し、その価値を改めて提示しました。関連企画のKōgei Diningは、鑑賞するだけでは知ることができない工芸の持つ“用の美”を、食事を通じて参加者自身が確認できる貴重な機会となりました。

beyond 2020

📅 2020.9.21-11.15 📍 東京国立博物館 表慶館

## 日本の自然と書の心

「日本の書200人選～東京2020大会の開催を記念して～」



井茂圭洞「大和心」

作品制作風景(黒田賢一)

作品や制作映像を通して、日本の書道文化を紹介  
日本を代表する現代書家202人が、様々な表現様式によって制作した新作と、障がい者の力強い書や、次世代を担う児童・青少年の書作品を一堂に展示。代表作家による作品制作映像の放映や、文房四宝(筆墨硯紙)の展示など、日本の書道文化を総合的に紹介しました。

beyond 2020

📅 2020.6.11-6.21 📍 国立新美術館

## 隈研吾展

新しい公共性をつくるためのネコの5原則



展示風景 ©Kioku Keizo

現代日本を代表する建築家・隈研吾の大規模展覧会  
世界各国の隈建築から公共性の高い68件を「孔」「粒子」「ななめ」「やわらかい」「時間」という隈が考える5原則に分類し、模型や映像などで紹介。建築の内部空間を体感できる360度VRや、ネコの視点で都市の生活を見直すリサーチプロジェクトも発表しました。

beyond 2020

📅 2021.6.18-9.26 📍 東京国立近代美術館

## 日本のたてもの

—自然素材を活かす伝統の技と知恵



東福寺三門 1/10模型 国立歴史民俗博物館蔵

日本建築の造形的な特徴を、模型などを通して紹介  
精巧な建築模型や、図面、道具などの展示を通し、日本建築の自然素材を活かした造形的な特徴を、古代から現代にいたるまで俯瞰して紹介。原建物が国宝・重要文化財であるものを中心に、これまで一般に公開されてこなかった貴重な建築模型を一堂に集めて展示しました。

beyond 2020

📅 2020.12.8-2021.2.21 📍 東京国立博物館 表慶館 ほか

## 企画展

「国立公園 -その自然には、物語がある-」



画像提供 国立科学博物館

全国34の国立公園を科学的、文化的な側面から紹介  
日本の美しい自然を後世に伝えていくために、国が指定し保護管理している国立公園。4K空撮映像や自然史標本、国立公園を指定する過程で重要な役割を果たした絵画等を多言語解説パネルで紹介。日本人の多様で豊かな文化について、国立公園を切り口に紹介しました。

beyond 2020

📅 2020.8.25-11.29 📍 国立科学博物館

## 日本博特別公演

「日本の音と声と舞」



歌舞伎「石橋」尾上菊之助 提供:日本芸術文化振興会

歌舞伎、文楽、能などの舞台芸術が特設舞台を彩る  
第一部では、アイヌ古式舞踊、2.5次元ミュージカルミュージカル『月雪花にあそぶ』と題して、歌舞伎、文楽、能、雅楽、琉球芸能、合唱などの舞台芸術が特設舞台に集いました。コロナ禍の影響で、無観客での収録によるテレビ放映となりました。

beyond 2020

📅 2020.3.14 📍 東京国立博物館 平成館(無観客)

## 日本博皇居外苑特別公演 ～祈りのかたち～



「翁」©日本芸術文化振興会



半能「石橋 大獅子」©日本芸術文化振興会



琉球舞踊「四つ竹」©日本芸術文化振興会

復興の祈りを込め、皇居外苑の特設会場で  
選りすぐりの芸能の数々を上演

beyond2020

皇居の二重橋を背景とした特設会場で、伝統芸能を上演。皇居の前身である江戸城の歴史的経緯を踏まえ、能と狂言を公演の中心に据え構成。14日には、琉球王朝時代に首里城で上演されるとともに琉球使節が江戸上りで上演した琉球芸能を迎え、令和元年に焼失した首里城の再建を祈念。13日には東日本大震災から10年を迎えることから、復興を祈念して岩手県大船渡市より浦浜念仏剣舞を招聘(雨天荒天により13日は公演中止)。皇居の豊かな自然とともに選りすぐりの芸能の数々を楽しめる機会となりました。

## ● 演目・出演者

2021.3.12 「翁」観世清和・野村萬斎／  
狂言「三本柱」野村万作／能「高砂」観世清和  
ほか

2021.3.14 琉球舞踊「四つ竹」ほか 玉城  
盛義・東江裕吉・新垣 悟・宮城茂雄／狂  
言「葺」石田幸雄／半能「石橋」観世清和・  
観世鏡之丞 ほか

※2021.3.13は雨天荒天により中止

● 2021.3.12-14

● 皇居外苑 皇居前広場

## LIVE JAPAN



提供:LIVE JAPAN

## 東京観光に必要な情報を訪日外国人に提供

訪日外国人の観光をサポートするワンストップガイドとして、食や観光などの日本文化を発信。スマートフォンやPCのブラウザからアクセスでき、リアルタイムでイベントや施設情報を、8か国語で提供しています。また、コロナ禍の中でもオンラインツアーの動画配信や感染症予防対応の対訳集の提供を行っています。

● 2016- ● オンライン

## 日本の食文化事業の発信



提供:株式会社モスフードサービス

## 情報発信の場の提供と多言語メニューの制作

全国の希望するホストタウン自治体と連携し、対象店舗内でホストタウン活動の情報発信の場の提供を行いました。また、ホストタウン相手国・地域の多言語メニューを42言語分制作し、対象店舗での導入やモスバーガー公式HPで公開しました。これらを通して、海外との交流や地域のグローバル化の一助を担いました。

● 2019-2021 ● モスバーガー 一部店舗

国立博物館・美術館×三越伊勢丹  
コラボレーション企画

商品イメージ 提供:株式会社三越伊勢丹

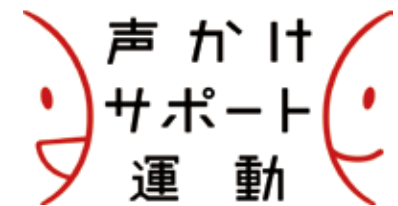
## 名画をあしらった限定ギフトを販売

美意識あふれるギフト商品を通じて、日本の贈り物文化を伝えていく取り組み。国立博物館・美術館が所蔵する数々の名作を商品パッケージにプリントしたコラボレーションギフトを、主に小中元・お歳暮・お土産物として販売。商品には英語表記の作品解説を同封し、インバウンドもターゲットとしています。

● 2019- ● 三越伊勢丹グループ一部店舗、オンライン

## 声かけ・サポート運動

みんなで支えあおう



提供:東京商工会議所

## 共助の心を東京2020大会のレガシーとして

高齢者や子ども、妊婦、子ども連れの方、障がい者、外国人の方々など、困っている方やサポートが必要な方を見かけた際に、「思いやり」や「おもてなし」の心で声をかける運動です。誰もが暮らしやすい共生社会を実現し、これをレガシーとして未来に引き継いでいくことを目指しています。

● 2015- ● 東京都内